

栗橋町の概要

栗橋町は、埼玉県の北東部、都心から 50 k m 圏に位置し、周囲は 3 市 3 町に接している。江戸時代には日光街道の宿場町として栄え、関東の三大関所と呼ばれた日光街道の「栗橋」には多くの人々が往来して、交通の要衝としても繁栄した。明治 18 年には鉄道が敷かれ、その後商工業及び農業の町として発展し、昭和 32 年の合併により現在の栗橋町となった。

総面積 15.78k m²、町の人口は 26,381 人、世帯数 8,767 世帯（人口・世帯数何れも平成 15 年 1 月 1 日現在）で、近年は人口の増加が著しく、過去 5 年間に 2 千人増えている。今後も、栗橋駅西地区・南栗橋駅周辺地区を中心に人口の増加が続くことが予想されている。

交通は、JR 東北本線（宇都宮線）及び東北新幹線が町の北から南西方に、東武日光線が北から南東方に縦貫している。当初、JR 線と東武線が乗り入れする栗橋駅のみであったが、昭和 61 年に東武線の幸手駅と栗橋駅の間に「南栗橋駅」が誕生し、これまでの電車の本数に加え、同駅始発が新設され、通勤の利便性が増した。JR 線栗橋駅から上野駅まで各駅で約 55 分、東武線栗橋駅から浅草駅まで準急で約 60 分要する。道路網は、町内の北東端に国道 4 号、北西部を北東から南西方に国道 125 号が走り、主要地方道、県道を結んで町内と隣接市町村に通じている。

また、商店は栗橋駅前の小売店舗街及び旧街道沿いに形成された旧来の商店街に加え、区画整理の進捗に伴い商業施設が整備されつつある栗橋駅及び南栗橋駅前に大規模小売店舗が進出している。しかしながら、町内の商業施設は日用品雑貨店が多く、商況は停滞気味で、既成商店街では閉店する店舗も見られ、通常高額な消費傾向は久喜・大宮方面に依存しているのが現状である。

南栗橋駅西口を中心とした「豊田土地区画整理事業」（開発面積 141.5ha、計画人口 14,000 人）が平成 11 年に完了しており、現在は栗橋駅西口を中心とした「幸手都市計画事業栗橋駅西土地区画整理事業」（昭和 58 年都市計画決定、第 1 工区 82.1ha、第 2 工区 39.0ha、計画人口約 10,000 人）が施行中である。また、既に栗橋駅の橋上化は行われていて、東西自由通路の西口・東口ともに開設開業している。

平成 15 年 1 月 10 日作成